

山と川と ヤナのまち。

—上益城郡甲佐町



甲佐町は、県のほぼ中央に位置し、緑川が町の中央を流れている。

町は古くからこの川の恩恵に浴し、八百六十五ヘクタールにわたる水田のほとんどが川の流域に広がっている。また、西日本最初の紡績工場も水がふんだんに使えるこの甲佐の地で産声を上げた。

江戸時代から設けられている「やな」は観光の目玉の一つで、たくさんの人が川座敷であゆ料理を楽しんでいる。今年から、河川敷を利用し、「鶴の瀬の里」と名付けられたビアガーデンがオープンし、六千人が訪れた。

ほかにも、恵まれた自然を生かし、甲おこし、日本一づくりが試みられ

ている。商店街中央を流れる大井手川の兩岸の道路は、車道として県下で初めてカラー舗装され、花いっぱい運動、環境美化、特産品づくりと町の振興に商店街の人々が立ちあがっている。

緑川河川敷を利用したジョギングコース、サイクリングロード建設などの夢も広がっている。「川を生かした町づくり」が日本一づくり運動として進められているのである。



この新聞を制作した
甲佐町立甲佐小学校六年一組のみなさん

お問い合わせ先 甲佐町役場
(☎〇九六-二三四-一一二)

美しい川と花の町 甲佐町



うの瀬と水田

加藤清正はせきを何度も作ったが失敗した。いろいろ考えてせきをななめにし、石がきを作り石にあなをあげ、あいた部分にくされない松の木をくいにしてせきがこわれるのを防いだ。せきの長さには六百五十五間もありました。また、水田への用水路を築き、ていぼうもつくった。清正のおかげで田もあられなくなり、水害もなくなつた。今でも甲佐の人々は清正公を敬い、神社を作り「清正公山」の名で親しんでいます。

ヤナ漁とアユとり

ヤナは魚をとるために門の瀬に作る仕掛けのことです。木の杭を打ち並べて水をせき止めの一方所ヤナ口にだけ流すようにし、そこに竹で編んだ簀を敷き落ちてきた魚をとります。上豊内のヤナは細川忠利侯の命により、寛永十年(一六三三)に設けられています。寛永代々の藩主が毎年御来遊されています。緑川は、川魚が豊富です。特にアユは、漁協の放流もあって解禁日をすぎると、川に人が生えているように多くの釣り人のにぎわいます。

文化活動

秋になると、文化祭があります。習字や図画、いけ花など多くの町民の展示物があります。特に習字は、小学生から老人までの作品があります。

甲佐小学校は、運動場が広くなり、一月二回になりみんがほりきつてはだして遊びます。(校内でもすあしです)部活動もさかんです。野球、サッカー、器楽、女子スポーツ、クラブがありみんなおそくまで練習しています。大人の文化活動やスポーツ活動もさかんです。日展に入選した本田先生や女子長登壇で活やくしている高浜さんは有名です。

キンモクセイ

キンモクセイは、毎日新聞社の調査で、大きさは日本一と折紙がつけられています。昭和九年十二月に天然記念物に指定されました。高さは二十メートルをこえる大樹です。幹の周りは、約四メートルあります。樹令は、七百年をこえています。秋の彼岸ごろ第二回目の花が咲き、さらに十月中旬ごろ第二回目の花が咲きます。黄金色をした花の香気が強く、緑川対岸の糸田まで香りが漂います。

カラー舗装ができた。

町の商店街の自まんの二つにカラー舗装があります。カラー舗装はきれいで歩きやすく、雨が降った日にはとくにきれいに見えます。町の人々も道がきれいになって、たいへんよろこんでいます。また、町のふんい気や表情もだんだん明るくなり、近ごろ活気がでてきたようです。町の中にフラワーポットがあり、季節ごとに花の種類がかえられ、カラー舗装がよりいっそうきれいに見えます。

花と庭園木

農家では菊づくりと花木さいばいがさかんです。年中温室や露地で菊をさいばいしています。温室では、電気の照明を利用して年中花をさかせています。最近ではバラやカーネーションなどの花の種類も多くなりました。また、乙女台地では、庭園を作る樹木もさいばいされています。だれでも参加できる市も開かれて多くの人に親しまれています。

